

「『かながわグラウンドデザイン 第3期実施計画』の点検」 について

令和4年11月
政 策 局

論 点

- ① 点検結果について、追加・修正等をするべき観点はないか
- ② コロナ禍で、第3期実施計画で設定した指標、KPIの多くは影響を受けた。現行の指標、KPIのあり方は妥当か

「指標」についての論点と県としての考え方

- コロナ禍で影響を受けた指標もあるが、プロジェクトの達成度を象徴的に表す数値として機能していたか

⇒コロナ禍において、プロジェクトを構成する事業は大きな影響を受けたが、プロジェクトのねらいは大きな影響を受けなかったと考えられることから、一定の機能を果たしたと考えられる

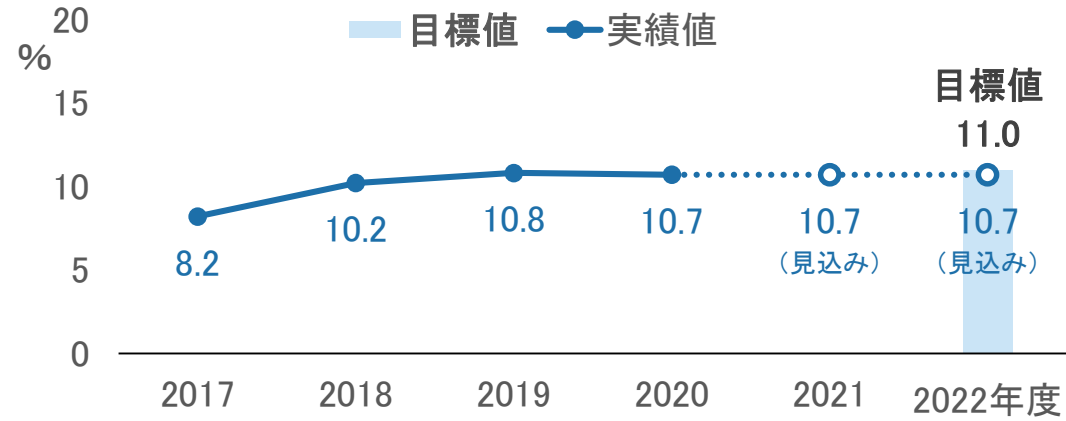
- 指標として毎年度の目標値を設定しなかったことは妥当だったか

⇒最終年度の数値のみを設定することにより、計画期間を通じたプロジェクトの達成状況を示すことができたことから、妥当だったと考えられる

「指標」の例

P J 5 エネルギー

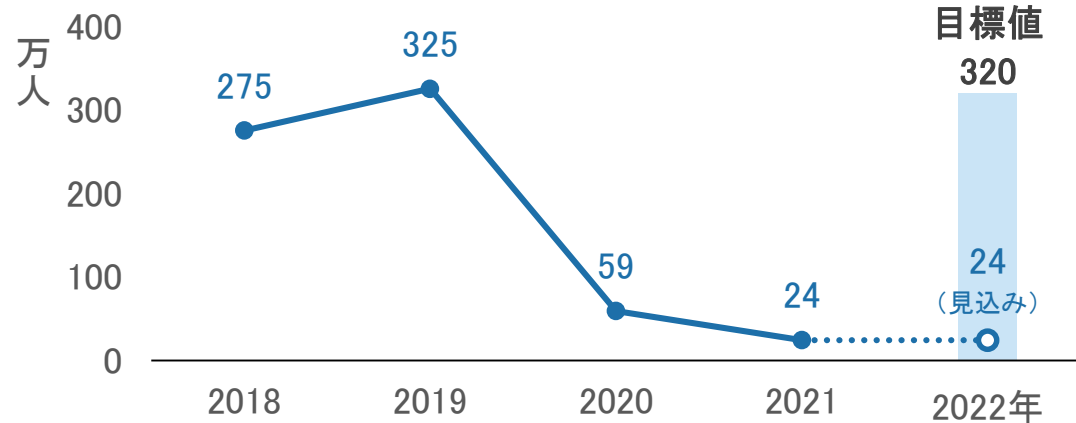
- 県内の年間電力消費量の削減率（2010年度比） <県エネルギー課調べ>



省エネ意識の高まりや省エネ設備の導入が進んだことなどにより順調に消費電力量の削減が進んでいるため、2022年度の目標値に近づく見込み

P J 7 観光

- 外国人延べ宿泊者数【暦年】 <観光庁 宿泊旅行統計調査>



2020年以降は、コロナ禍により、外国人観光客の入国が制限されたため、大幅に減少した

2022年については、6月から外国人観光客の受入れが再開され、10月に入国者数の上限が撤廃されたが、目標値を下回る見込み

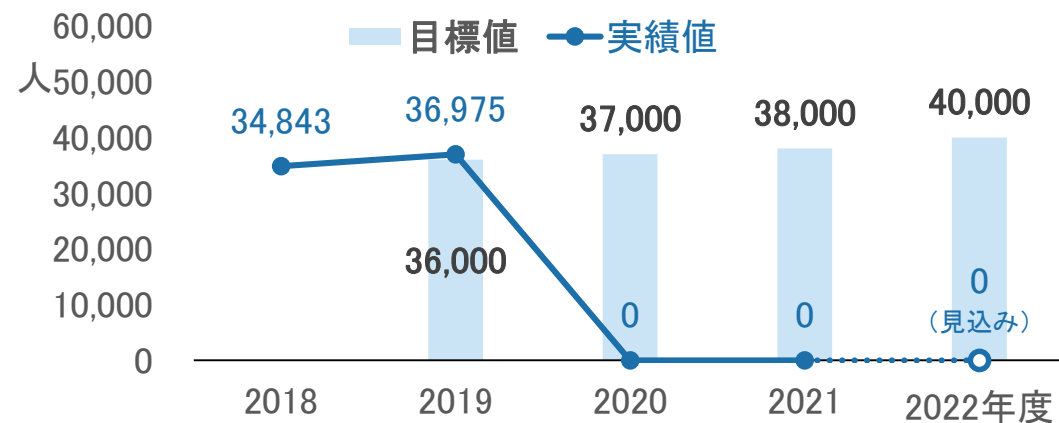
「KPI」についての論点と県としての考え方

- コロナ禍でKPIに係る事業が中止・延期となったものや、KPIの実績値が想定外に増加したものもある。そのような事業やそれらを含む構成施策の評価はどうあるべきか
 - ⇒ KPIの実績値だけでなく、事業目的への寄与度や、目的達成に向けた工夫、政策改善の結果も含めて評価すべきであると考え
- KPIの結果が次年度以降の施策に活かされたか。次年度以降に活かすためにはどのような視点が必要か
 - ⇒ KPIが目標未達であった場合でも、KPIの達成だけに注力するのではなく、プロジェクトのねらいの実現に向けた政策改善が必要であると考え

「KPI」の例

PJ5 エネルギー

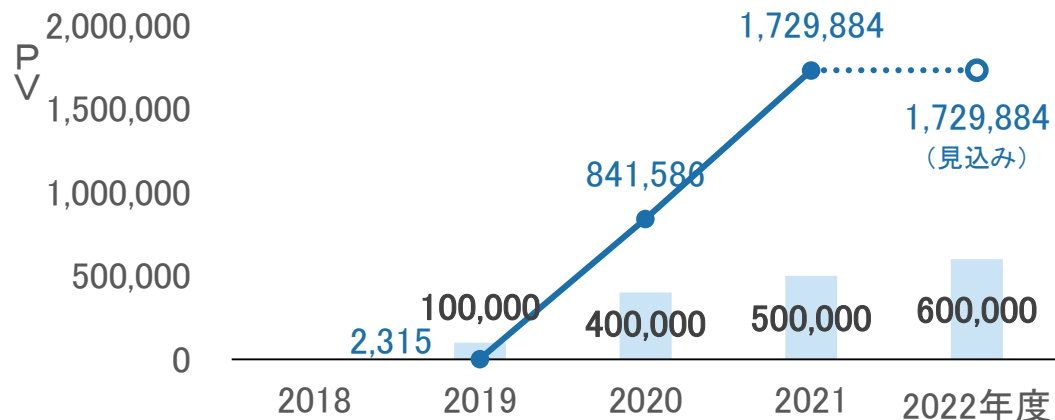
太陽光発電に係るイベントなどへの来場者数



2019年度までは目標を上回っていたが、コロナ禍による影響を受けイベントを中止し、2022年度の目標値に届かない見込みだが、インターネット広告等による普及啓発活動のほか、ZEHの担い手を増やす事業者向けセミナーをオンライン開催している

PJ7 観光

「観光かながわNOW」宿泊施設紹介のページビュー数



2020年度、2021年度は、行動制限等の影響でかえって旅行に対する関心が高まったこと、「かながわ旅割」により、ホームページの閲覧者が増加したことから、目標を達成した

2022年度についても、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連した閲覧者の増加により、目標値を達成する見込み